

社友会だより

第20号

発行 センツウ社友会
住所 千葉県松戸市六高台 2-102-12
〒270-2203 長谷川英夫 内
編集者 大場省平

新年のご挨拶

社友会会長 法安忠美

新年明けましておめでとうございます。
皆様におかれましては、よいお年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。



昨年、会社56年の歴史に幕を降ろすという衝撃の出来ごとに遭遇しましたこと、断腸の思いであります。

それぞれの想いを胸に移管先各社に赴かれた後輩諸君のご健闘とご多幸をひたすら祈るほかはありません。

さて、母校終焉が、直ちに我が社友会の存続につながるものではありません。卒業生の皆様はそれぞれ意気揚揚であります。これからも、手を携えて、本会の目的とする会員相互の親睦や福祉の増進に、一層の努力を傾けて参りたいものであります。

しかしながら、会社解散が会の運営に影響なしとは申せません。その最たるものは、法人会費収入消滅後の財務の問題であります。過般お願いしたアンケートの集約結果をも踏まえ、対応策をご相談して参りたいと考えております。

又、組織及び組織運営についてもこの際、更なる議論を深める必要があります。とりわけ、会長をはじめとする役員構成であります。これまでも機会あるごとに申し上げて参りましたように、役員世代交代、つまりロートルから若返りが喫緊の課題であります。中央、地域を問わず、又、自薦、他薦を問わず進んでお世話して頂けるかたのお申し出をお待ちしております。現がそのチャンスです。この懸案が進捗すれば滞積する諸案件も一気呵成に霧散し、素晴らしい社友会の夜明けとなります。皆様のご協力を切にお願い申し上げます。

最後に、皆様のご健闘とご多幸をお祈り申し上げまして、新年の挨拶と致します。

ドコモ・センツウ 「感謝の夕べ」開催



[長谷川事務局長]

平成20年11月20日(木)午後6時から東京港区の「虎の門パストラル」において「ドコモ・センツウ感謝の夕べ」が開催されました。

当日は、富岡社長をはじめ会社幹部・社員・東京近郊在住のOBと業務移管先であるドコモモバイルの社長等が集い、人で広い会場が埋めつくされました。



社員は、新会社に移籍することへの不安と希望が入り混じった心の内を語っていました。

OBの方々は、代表の挨拶の機会もなく、何も語ることはありませんでしたが、NTT労働組合ドコモ本部の方のご挨拶の中で、歴史



ある会社がこのような形で消え去る前に何か出来なかったものかとの発言に多くの方がうなずく姿が印象的でした。

参加されました。



参加されました。

た、社員の皆さん、OBの皆さん一応に明るい笑顔で



ご歓談され56年と永きにわたるセンツウを静かに見送りました。

会社解散に対する各地域からの声

*センツウの思いで

センツウ丸ありがとう*

<中央地区 後藤幹彦さん>

56年もの長い間少しも休むことなく、航海を続けてきた「センツウ丸」も遂にイカリを降ろすことになった。



その間、幾多の荒波や、暴風雨に見舞われ、船長以下乗組員一同、船酔い（酒酔いもあった）に苦しみながらも力を合わせて無事にこれ乗り越えてきた

たことは、誠に喜ばしい限りである。

「センツウ丸」よ、長い間本当にお疲れ様でした。

今は、ゆっくりと休んで下さい。

私のセンツウの思い出はたくさんあるが、やはり印象深いのは、新入社員のころである。

昭和37年4月、入社してすぐ東京出張所（当時）に配属され、「郵船ビル」というからどんな立派なビルかと思ったら、連れ行かれたのは少し古ぼけた（失礼！）木造の二階建ての建物だったので、なんだかガッカリしたことを覚えている。（東京ではこういうのもビルと呼ぶのかと勉強にはなったが・・・）

しかし当時の出張所のメンバーは青山所長（故人）始め皆さん本当によい人ばかりで、田舎出の私を親切に指導してもらったことは今も大変感謝しています。

船舶電話、岸壁電話の付け・外し、ライン整備等に結構忙しい毎日でしたが、充実した毎日でした。

SQ機の肩に食い込む重さに最初は驚いたが、そのうち慣れてくると元々体力には自信があったのでセットの上にAVRを担ぎ、首からフィーダーバックを下げ、手にはアンテナ袋を持って平気でタラップを昇り降り出来るようになった。

失敗談もたくさんあるが忘れられないのは、ある外国船（確か比国籍船）に船舶電話を付けに乗船した時の事、操舵室に入ったら、色の浅黒い乗組員が居たので、片言の英語で電話を付けに来た旨を伝えたところ、「ごくろうさん」の声に、なんと日本人のワチマンだった。（赤面。赤面）ほかにも色々ありますが、またの機会に譲ります。

今は、「センツウ丸」に乗船し、無事に下船できたことを心から感謝しております。

「センツウ丸」ありがとう

<九州地域 金重 寛さん>

皆さん、あけましておめでとうございます。

センツウが無くなったこと、残念で寂しく思います。

これからは今まで以上に連絡を密にして社友会を楽しいコミュニケーションの場として行きましよう。



<中央地域 黒田繁雄さん>

新年明けましておめでとうございます。

丑年にちなみ牛歩のごとく一步一步確実に前進して行きたいと思えます。

さて、昭和36年10月学業途中で入社し煤煙のため100メートル先も見えない川崎営業所（当時横浜営業



所川崎分室）に配属されてから40年余りお世話になった会社が幕を閉じ寂しいの一言です。

今後は社友会の形態はどうなるか分かりませんが心のよりどころとして、また、情報の発信源としてますます発展することを期待し願うばかりです。

* 事務局よりお知らせ *

会社解散に伴い、社友会の事務所所在地等を当面下記のとおり変更し運営いたします。（会則変更まで）

○社友会事務所

住 所 〒270-2203 千葉県松戸市六高台2-102-12
長谷川英夫 内

電 話 090-2526-8753・047-384-6608

○社友会だより

発行元住所 社友会事務所と同じ

○新規会員続々入会

12月31日現在、31名の方が入会され、会員数は228名となりました。

なお、現在も入会手続きを行っております。

新規会員の皆様、ありがとうございました。

会社は解散でもセンツウ社友会は不滅です。

末永く親睦の輪を広げましょう。

ご意見、ご希望はお気軽に電話ください。

* お悔やみ *

笹岑武弘 様 平成20年11月21日73才

謹んでご冥福をお祈りいたします。

* 「社友会だより」に近況等ご投稿をお待ちしています。 *

- 内 容 型式等は問いません。何でも可
- 文字数 1000文字以内、できれば写真をお願いいたします。
- 宛 先 編集担当 大場省平
TEL03-3651-1289・fax03-3651-8514
E-mail:shoheiohba@aol.com

次回の発行は4月を予定しています。